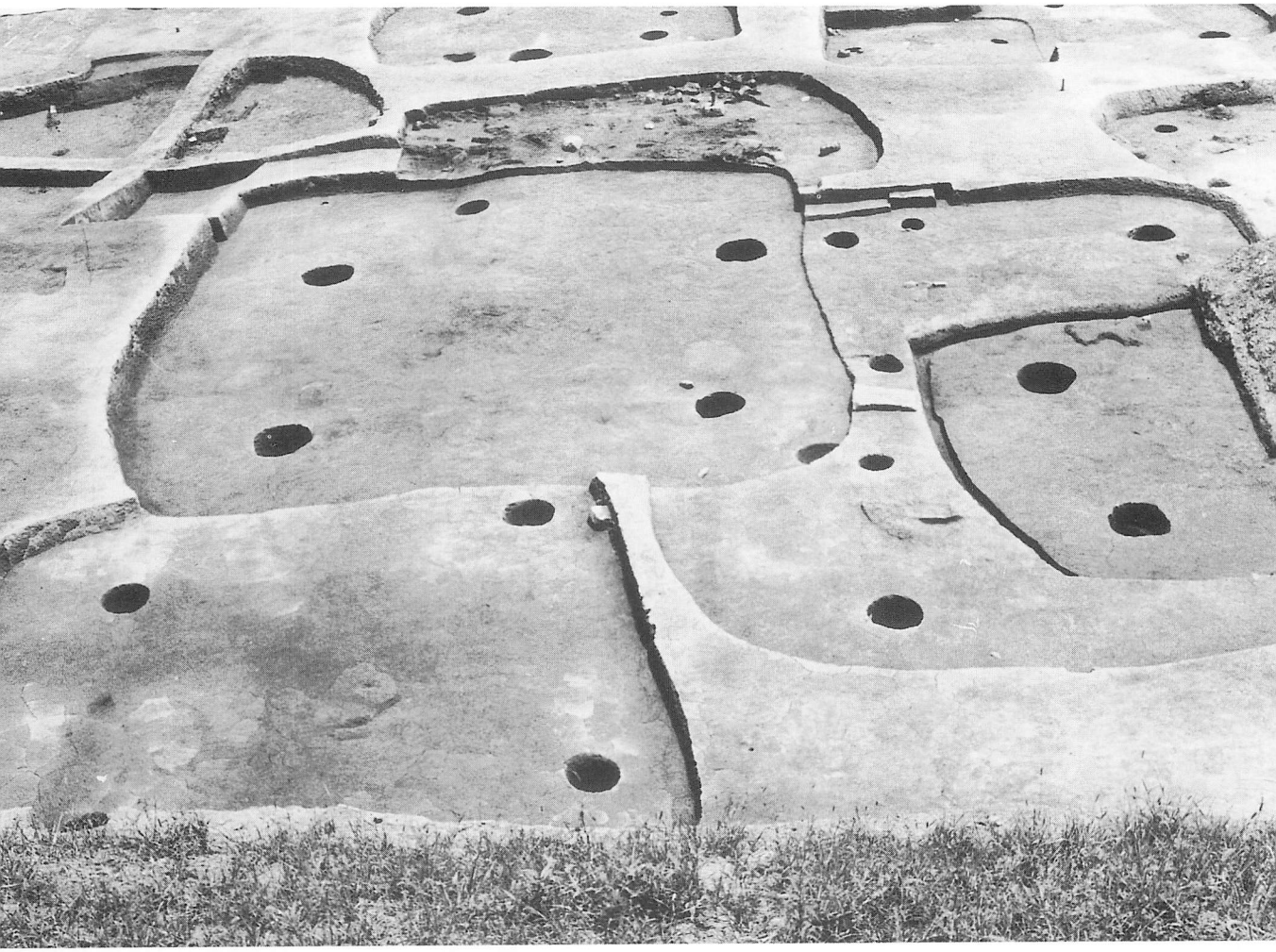
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第112集

村前東A遺跡概報3

一般国道52号線（甲西道路）改築工事・中部横断自動車道建設工事に
伴う埋蔵文化財調査（Ⅳa区）



1996.3
山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局

序

村前東Ａ遺跡は、現在の山梨県中巨摩郡櫛形町と若草町との境界地域に広がる遺跡で、甲府盆地西部の御勅使川扇状地の扇端部に位置しております。

本遺跡は、これまで３次にわたり調査が行なわれております。１、２次調査は一般国道52号線（甲西道路）改築にともない1990、1994年度に、３次調査は中部横断自動車道建設に伴い1994年度に行われたところであります。４次調査となる本年度も、中部横断自動車道建設に伴うもので、本書はこの４次調査の概要をまとめたものであります。

今年度の調査はインターチェンジ建設予定部分のうち、昨年度未調査であった箇所を４ａ区として実施しました。その結果平安、古墳、弥生時代の文化層が確認されました。

平安時代では竪穴住居址15軒、掘立柱建物址２棟、溝２条が確認され、該期の集落構造が明らかになりつつあります。古墳時代では竪穴住居址90軒、掘立柱建物址５棟、焼土址３基、ピット多数が確認されました。このうち、竪穴住居址は昨年調査されたものを含めるとその数は120軒を越え、大規模な集落の存在が明らかになりました。これらの遺構からは多くの土器をはじめ鉄器、石器などの遺物も出土しており、甲府盆地における該期の動態を知るうえで貴重な資料が得られたことになります。弥生時代では、昨年度確認された水田址の規模がさらに広がることがわかりました。

この概報が多くの方々に利用いただければ幸甚です。末筆ながら、種々のご指導、ご協力を賜った関係各位、並びに直接調査に参加いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

1996年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　大塚初重

目次

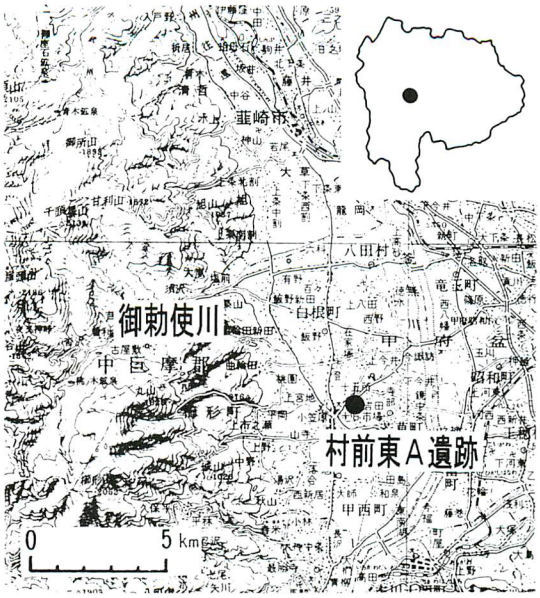
１．遺跡の位置
２．調査経過
３．発掘された遺構と遺物

例言

１．本書は1995（平成７）年度に実施した山梨県中巨摩郡櫛形町、若草町地内に所在する村前東Ａ遺跡（むらまえひがしＡいせき）Ⅳａ区の発掘調査の概報である。
２．調査は中部横断自動車道建設工事に伴って、日本道路公団から山梨県教育委員会が委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
３．発掘調査は三田村美彦・佐野和規が担当した。
４．本書の執筆・編集は、上記の２名が担当し、文責は文末に明記した。
５．本報告書にかかわる出土品、記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

1．遺跡の立地と概要

村前東Ａ遺跡は、山梨県中巨摩郡櫛形町十五所と同若草町十日市場の境界、標高280ｍのところに位置している。この地域は、甲府盆地西部にある御勅使川扇状地の扇央部から扇端部にあたるため、砂礫の堆積が多い。このため、周囲は稲作に適さない地帯であり、桃やさくらんぼなどの果実畑が遺跡をとり囲んでいる（第１図）。本年度は、調査面積が約２万㎡に及び、そのほぼ全域から弥生時代の水田址、古墳時代、平安時代の住居址等が確認された。これほど広範囲に遺構が確認できる遺跡は県下では貴重であり、地域住民等の関心を集めた。

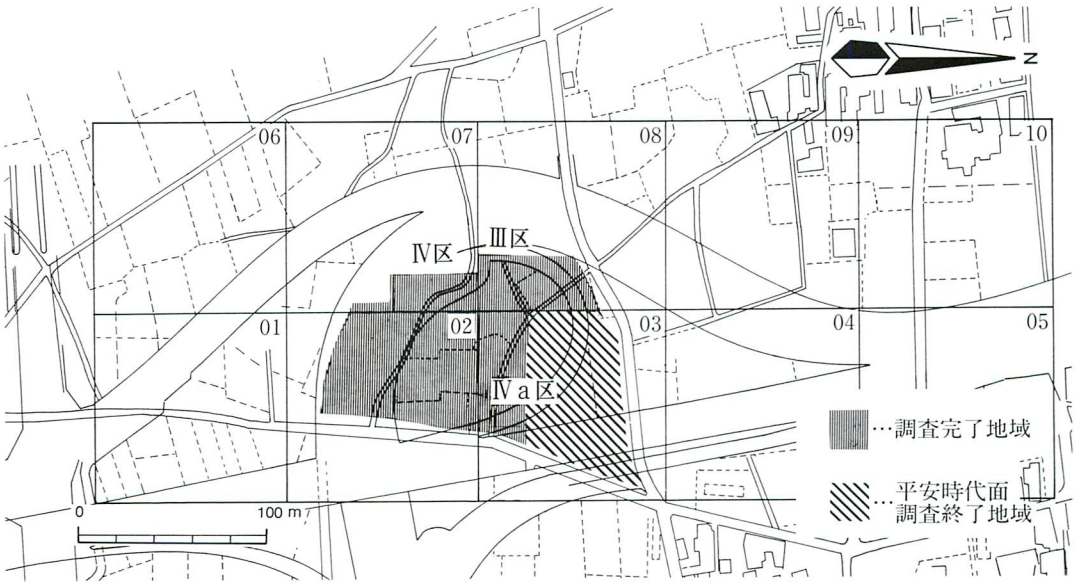


第１図　遺跡の位置

2．調査の経過

甲西道路および中部横断道路の改築建設に伴う村前東Ａ遺跡の調査は平成５年度に開始され今年度で３年目を迎えた。これまでの調査で、弥生、古墳、平安、中近世の４面の文化層が確認されている。そして、平成６年度は、中部横断道路インターチェンジ部西側を３区、４区として調査を完了した。今年度は、引き続いてその東側をⅣａ区として調査し、弥生、古墳、平安の各時代に対応する遺構を確認した。インターチェンジ部分の平安時代面の調査は今年度ですべて終了し、古墳時代、弥生時代の面は、一部調査を来年度に持ち越すこととなった（第２図）。

佐野和規



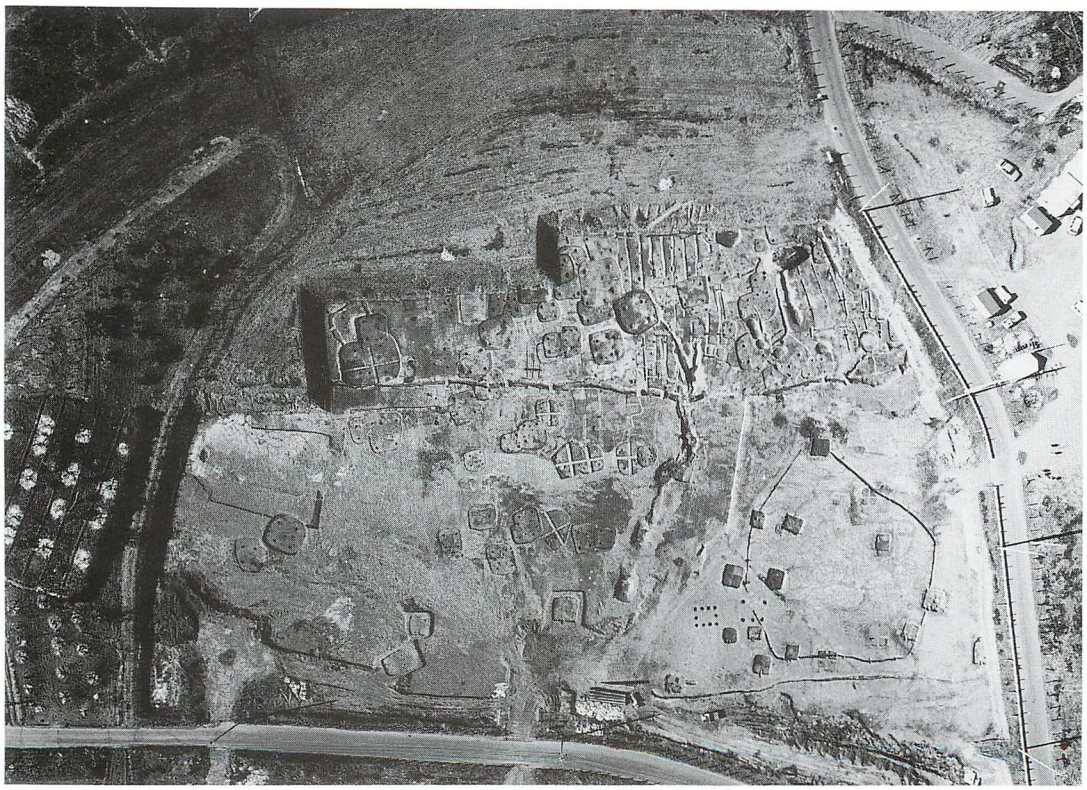
第２図　調査区の位置（Ⅲ区・Ⅳ区・Ⅳa区）

3．発見された遺構と遺物

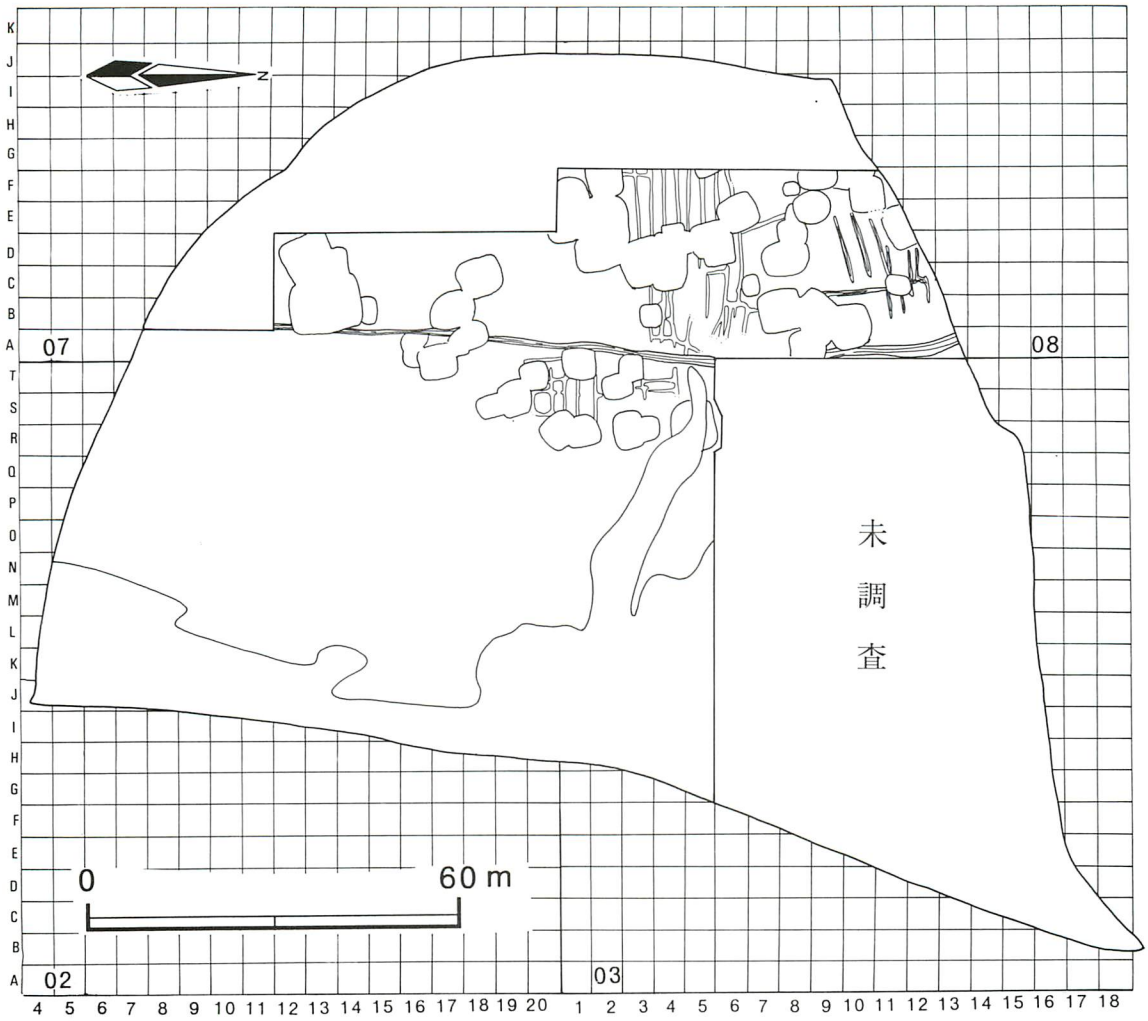
ここでは、今回の調査で確認された弥生・古墳・平安時代の３面にわたる文化層について、時代順に概観してみたい。

1）弥生時代（第３面）（第２図）

今年度の調査で確認された弥生時代の遺構は、水田址と溝状遺構である。水田址は調査区の中央から北西寄りで約30面確認され、短辺２ｍ長辺３～10ｍを測る小区画水田となる。また水口と考える施設も検出された。ただ、古墳時代の住居址に切られていることや、畦畔と確認面の色調が近似しプラン確認が難航したため、その全体的な広がりや各水田面の規模に不明瞭な点が残る。溝状遺構は10条検出された。調査区中央を南北に走るものは幅約１ｍ、深さ約50cmを測り、覆土には砂礫が堆積している。調査区北側では９条の溝がまとまって検出されている。いずれも幅約40cm、深さ約30cmを測る小規模のもので、断面がＵ字状を呈す点で共通している。これらの溝状遺構はそのプラン検出の段階で、上記した水田址の畦畔とも考えられたが、覆土に細かい砂礫を多く混入し、畦畔に用いられたものと異なり、断面で掘り込みが確認されたことから、溝状の遺構としたものである。これらの溝からその時期を決定する遺物は出土していないが、その多くが古墳時代の住居址に切られていることから、その時期は弥生時代以前に比定され、水田址と有機的関係にあったと思われる。



Ｐ1,1　Ⅳa区全景

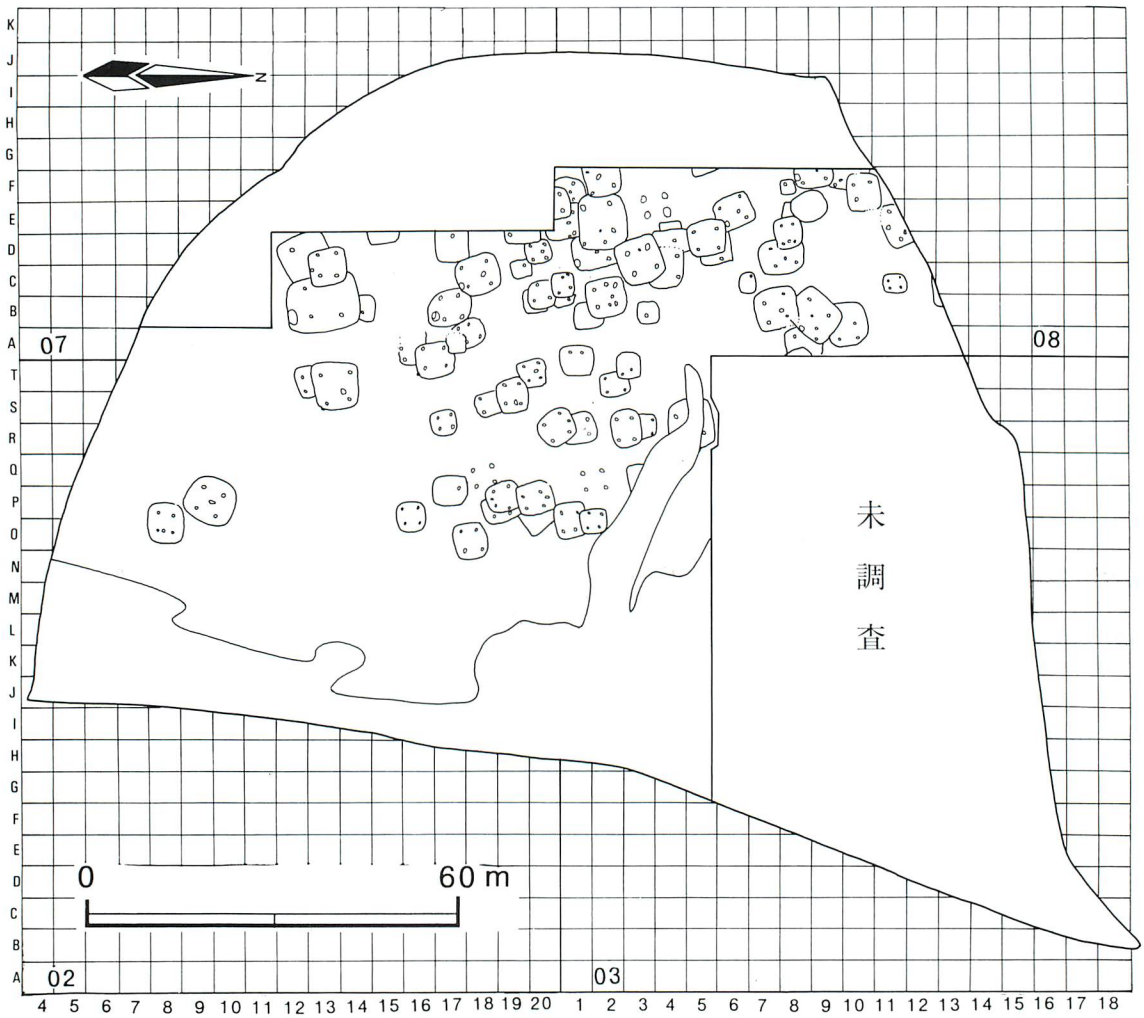


第３図　弥生時代の遺構配置図

２）古墳時代（第２面）（第４図）

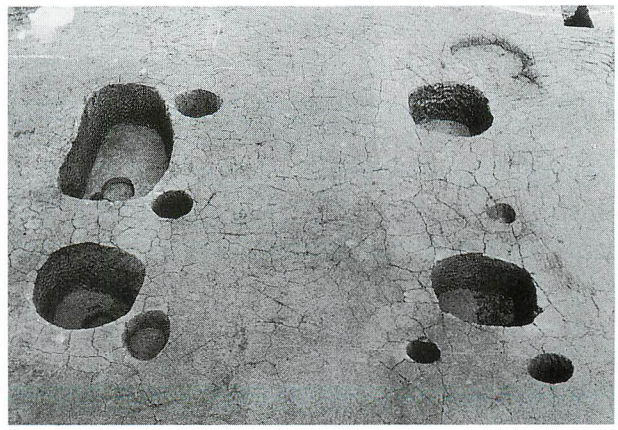
古墳時代では前期に比定される住居址90軒・掘立柱建物址５棟・焼土址３基・ピット多数が検出された。住居址はその分布が、調査区の中心からやや北寄りが密に、南下するほど疎になる傾向が認められる。プランは一辺４～６ｍの隅丸方形あるいは方形となるものが主体となるが、最小３×３ｍから最大11×９ｍを測るものまで、その規模は多様である。柱穴は４本柱主柱となるものが多いが、６本主柱や不明となるものがあ

Ｐ1,2　古墳時代住居址群



第４図　古墳時代の遺構配置図

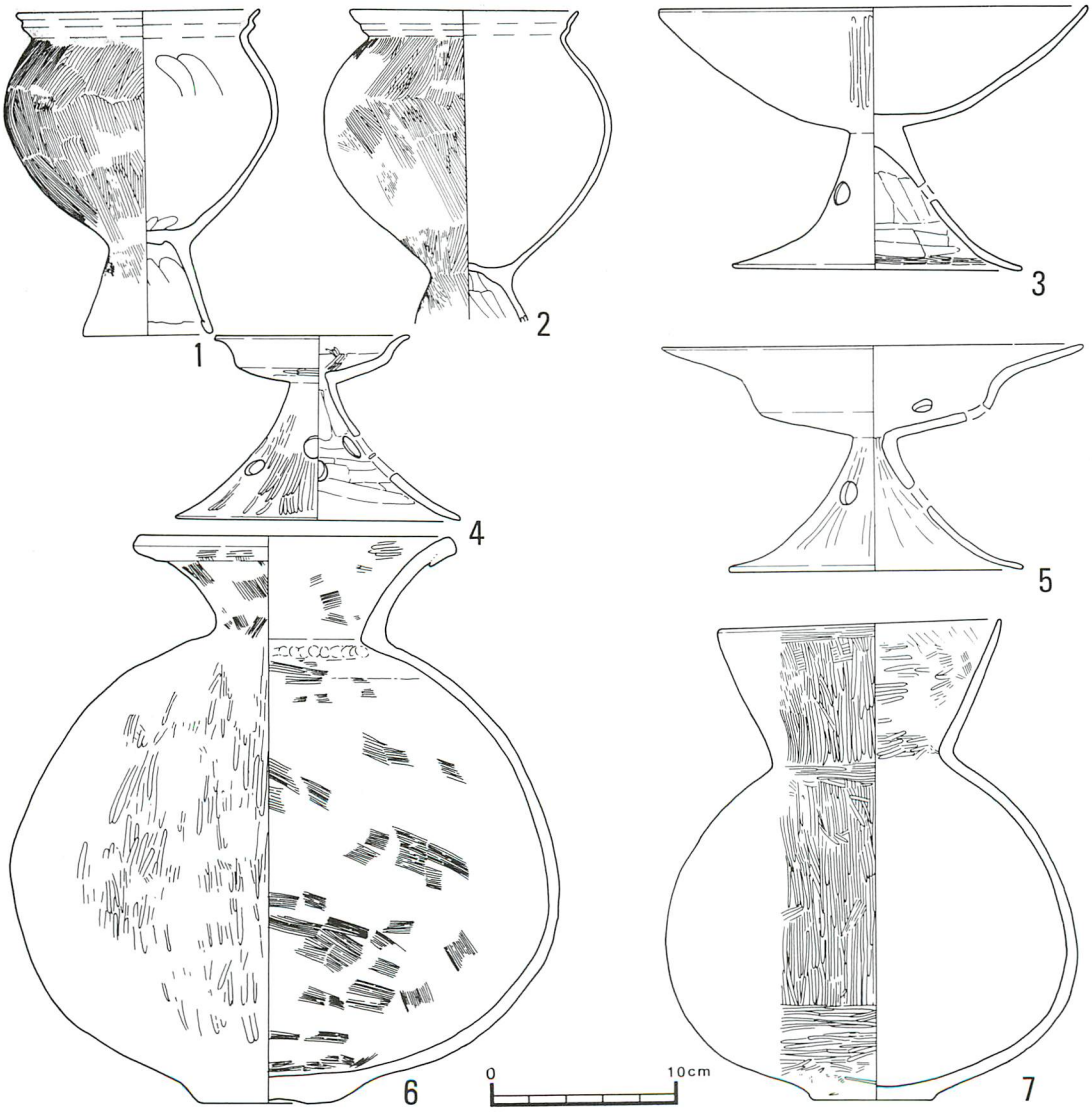
る。炉は地床炉で、浅い掘り込みに粘土を貼った所謂火皿を持つものや、縁辺の一部に横長の礫を配したり、粘土で堤を築くものが認められた。住居址入り口部のコーナー付近には、貯蔵穴と考えられる凸堤の巡るピットが検出されるものがある。掘立柱建物址は２×２間となるものが多い（Ｐ１，３）。これら検出された遺構からは壷・甕・ヒサゴ壷・高坏・器台などの土器の他、僅かではあるが鉄鏃等の鉄製品や砥石・敲石様の石器が出土している。土器はいずれも３



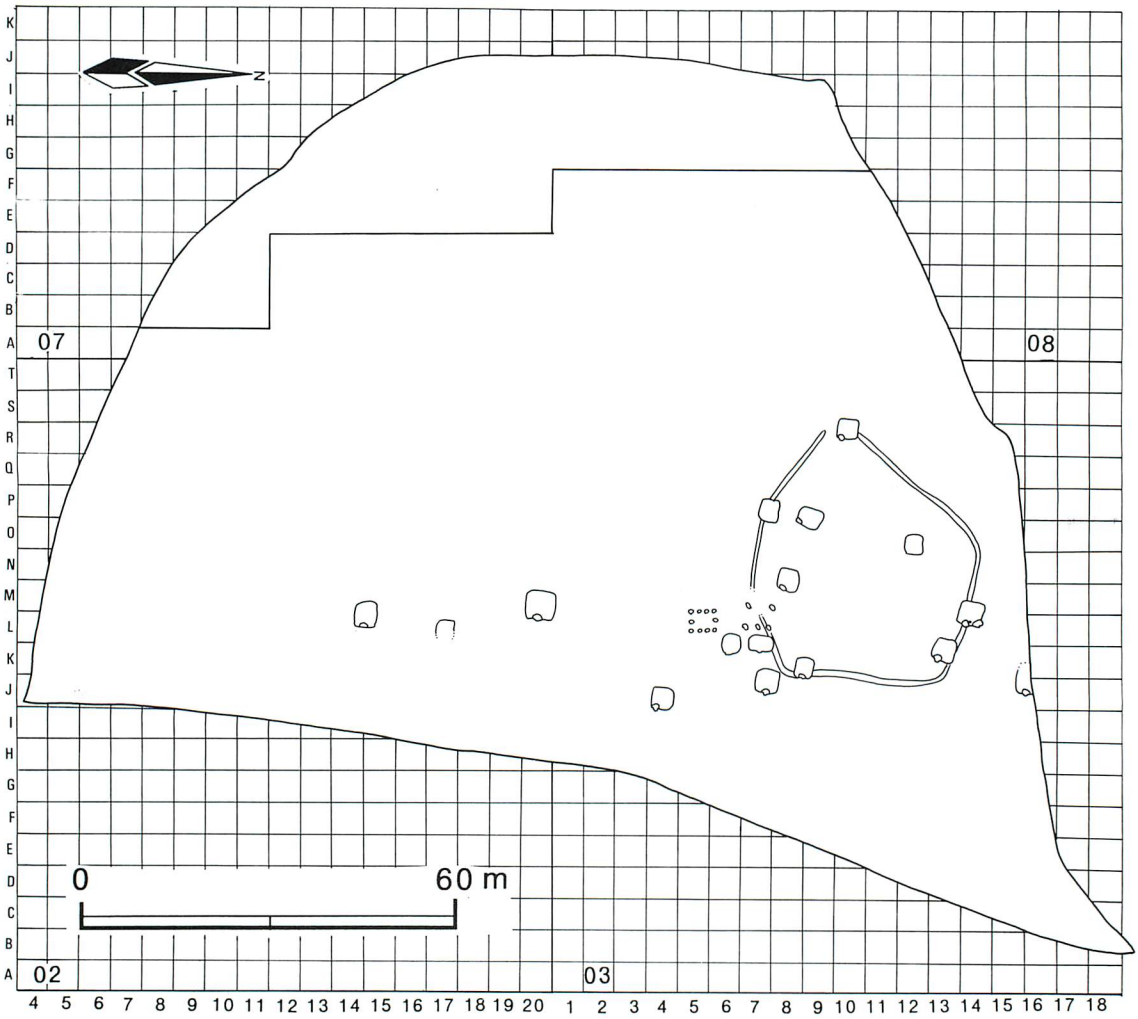
Ｐ1,3　古墳時代掘立柱建物址

世紀中葉から4世紀に比定される古式土師器で、S字状口縁台付甕など非在地系の土器が多く出土している。第5図は58号住居址から出土した土器で、当該期の器種をほとんど網羅している（S字状口縁台付甕1．2、高坏3、器台4、装飾器台5、壷6、ヒサゴ壷7）。なお、昨年度も当該期の住居址を36軒調査しており、今年度と合わせるとその数は120軒を越え、本遺跡が古墳時代前期には拠点的な集落として機能していたことを伺わせる。　　三田村美彦

P1,4　58号住居址土器出土状況



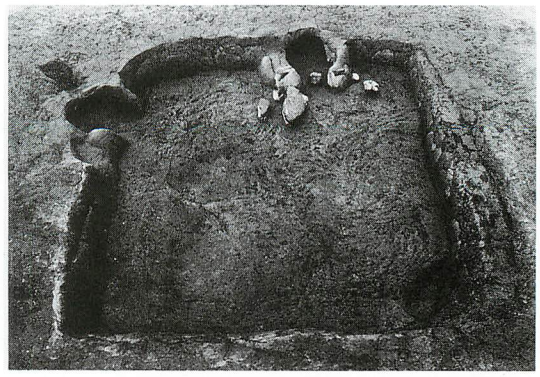
第5図　58号住居址出土土器　S＝1/4



第６図　平安時代の遺構配置図　S＝１/1200

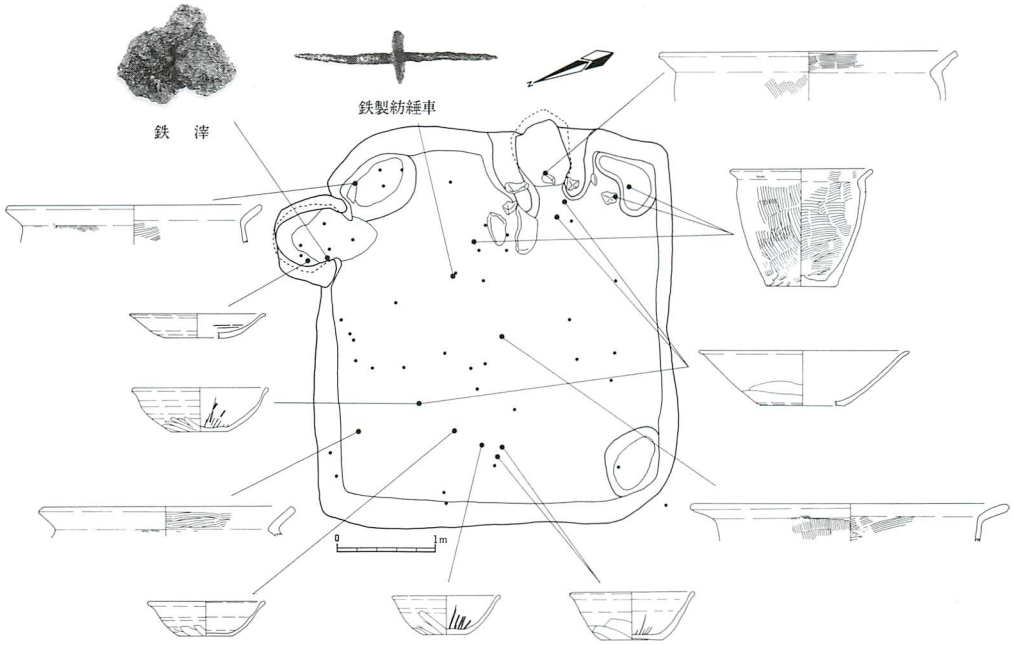
３）平安時代（第１面）（第５図）

本年度調査で確認された平安時代の遺構は、竪穴住居址16軒、掘立柱建物址２棟、溝１条である。竪穴住居址の内、11軒は東竈であり、１軒は北竈をもつ。また、別の１軒では、北と東に一つずつ竈が確認された（22号住居址、Ｐ15）。竪穴住居址の時期は、出土遺物から、おおよそ９世紀から10世紀にかけてのものであると思われるが、今後詳細に検討されるべきである。また、６号溝は、本年度発見された平安時代の竪穴住居址のいくつかと切りあったり近接したりする形で確認されている。切りあう部分においては、すべて、竪穴住居の方が溝を切っている。この溝と竪穴住居との関係も検討を要する。

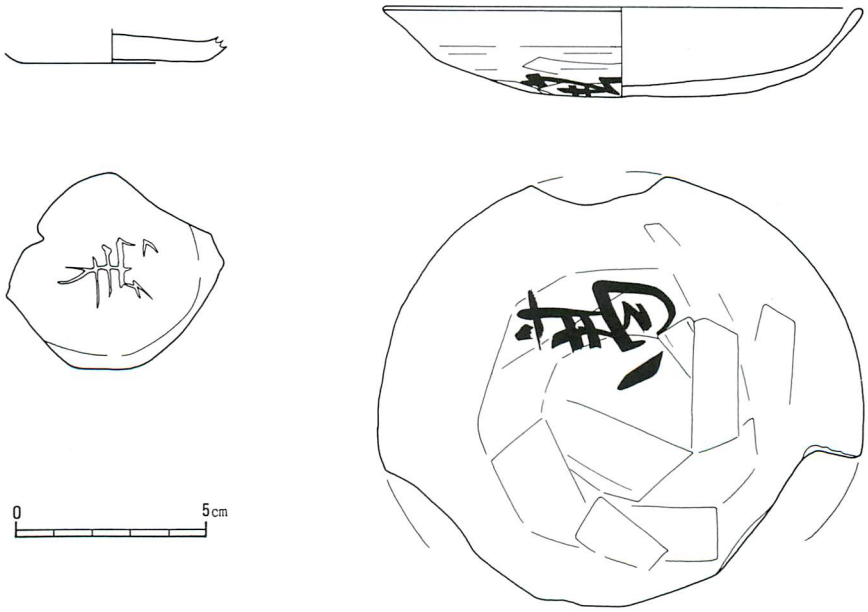


Pl５，22号住居址

佐野和規

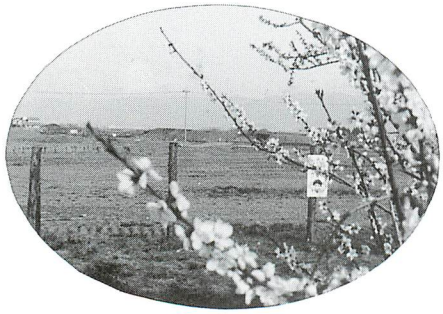


第７図　22号住居址遺物出土状況



第８図　20号住居址出土刻書土器（左）、40号住居址出土墨書土器（右）

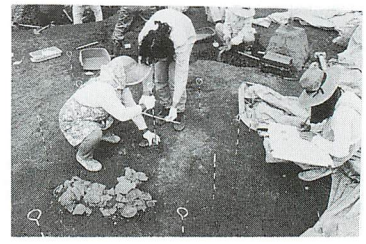
村前東遺跡発掘の軌跡



遺跡の春

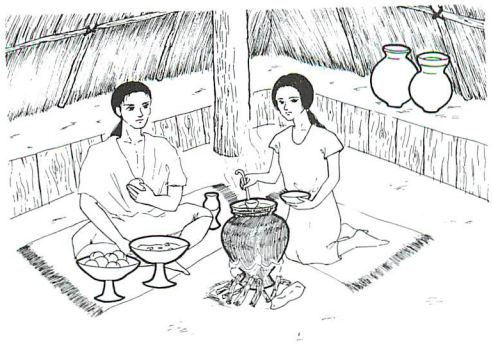
発掘開始

富士を望んで発掘



測量中

Ⅳa区平安堀立柱建物跡



見学者説明用の古墳時代住居内予想図

遺跡見学会に備えて

調査組織

調査主体	山梨県教育委員会
調査機関	山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者	佐野和規（主任文化財主事）　三田村美彦（文化財主事）
作業員・整理員	秋山昭二、秋山長平、芦沢ひろ江、芦沢八千子、雨宮朝子、有泉武士、飯室菊美、石川茂子、石川房男、井上九二雄、井上時男、井上正子、内田修一、鰻池定一、大久保洋一、大森玲子、小沢一枝、小野嘉雄、河西武子、神田久美子、河野トク、小林将子、斎藤いつ子、佐久間篤子、沢登タツエ、志鎌紀子、清水友美子、杉田一雄、鈴木みつ子、仙洞田しずえ、千野ふみよ、土井みさほ、内藤孝子、内藤春江、名取清子、新津多恵、原田佳世、原田佳子、樋口京子、樋口しげ子、深沢照明、深沢朋次郎、深沢はる、深沢三千雄、古郡フミ子、保坂よし、望月里子、望月忠、望月祐子、安原敏夫、若菜永子、若林初美、渡部さつみ、渡辺洋子
協力機関	櫛形町教育委員会　若草町教育委員会

報告書概要

フリガナ		ムラマエヒガシＡイセキガイホウ３
署名		村前東Ａ遺跡概報３
副題		一般国道52号（甲西道路）改築工事・中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査（Ⅳａ区）
シリーズ		山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第112集
著者名		佐野和規　三田村美彦
発行所		山梨県教育委員会・建設省甲府工事事務所・日本道路公団東京第２建設局
編集機関		山梨県埋蔵文化財センター
住所・電話		〒400-15　山梨県東八代郡中道町下曽根923　ＴＥＬ 0552-66-3016
印刷所		（株）少国民社
印刷日・発行日		平成８年３月22日　平成８年３月29日
村前東Ａ遺跡Ⅳａ区概要	所在地	山梨県中巨摩郡櫛形町十五所
	地図名・位置・標高	小笠原（２万５千分の１）　北緯35度37分　東経138度29分 約280ｍ
	主な時代	弥生時代、古墳時代、平安時代
	主な遺構	弥生時代―水田址、溝　古墳時代―竪穴住居址、掘立柱建物址、溝、土坑 平安時代―竪穴住居址、掘立柱建物址、溝、土坑
	主な遺物	土師器、須恵器、鉄器、石器
	特殊遺構	
	特殊遺物	
	調査期間	平成７年４月10日～12月27日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第112集

1996年3月22日　印刷
1996年3月29日　発行

村前東A遺跡概報3

（むらまえひがし）

一般国道52号線（甲西道路）改築工事・中部横断
自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財調査（Ⅳa区）

編集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL　0552-66-3016
発行　山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局
印刷　㈱少国民社

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第112集
村前東A遺跡概報3
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局